

# Best of ESMO 2024 役割者のご紹介

## Breast cancer

### 司会



**尾崎 由記範 Ozaki Yukinori**  
がん研有明病院 乳腺内科・先端医療開発科

【視聴者へのメッセージ】  
乳癌領域では魅力的な演題をピックアップし、豪華キャストによるディスカッションを行います。  
・トリプルネガティブ乳癌に対する周術期pembrolizumabのKEYNOTE-522試験のOS結果  
・HER2陽性乳癌（±脳転移）に対するT-DXdのDESTINY-Breast12の主解析  
その他、HER2-ultralow、T-DXdに関するデータや新規術前免疫療法などの演題をご紹介します、その解釈、将来展望など議論する予定です。ご期待ください！

【ご略歴】  
2008年3月 慶應義塾大学医学部卒業  
2008年4月-2010年3月 東京歯科大学市川総合病院 初期研修  
2010年4月-2014年3月 亀田総合病院 腫瘍内科 後期研修医、医員  
2014年4月-2020年3月 虎の門病院 臨床腫瘍科 医員  
2017年7月-現在 国立がん研究センター研究所 免疫創薬部門在籍  
2020年4月-2023年3月 がん研究会 有明病院 乳腺内科 副医長、先端医療開発科併任  
2023年4月-現職 がん研有明病院 乳腺内科 医長、先端医療開発科併任



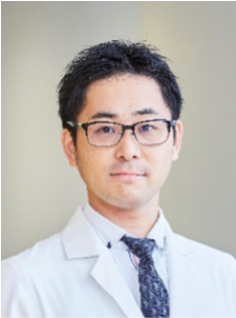
**松本 光史 Matsumoto Koji**  
兵庫県立がんセンター 腫瘍内科・遺伝診療科・研究部・外来化学療法センター

【視聴者へのメッセージ】  
今回のESMO 乳癌領域では、15題がLBAとして発表されます。KN522のOS結果(Presidential)や、術前のケモフリー、運動などかなりバラエティに富む内容から厳選した6題を選択予定です。婦人科領域では、6題がLBAとして発表されます。今回は昨年と異なりネガティブな結果が多いですが、考えるところの多い試験が含まれています。どちらの領域とも、皆様と情報を共有したうえで議論する機会になれば幸いです。

【ご略歴】  
1999年 京都府立医科大学医学部医学科卒業  
2001年 国立がんセンター中央病院内科レジデント  
2004年 同病院 乳腺・腫瘍内科チーフレジデント  
2006年 兵庫県立がんセンター腫瘍内科 科長・外来化学療法センター 副センター長  
2024年 腫瘍内科 部長・研究部 部長・遺伝診療科 科長・外来化学療法センター センター長  
現在に至る

# Breast cancer

## 講師



**下井 辰徳 Shimoi Tatsunori**  
国立がん研究センター中央病院 腫瘍内科

### 【視聴者へのメッセージ】

今回のESMOでも、乳癌領域では、周術期、転移・再発領域で日常診療に直接影響する研究結果が数多く報告される予定です。特にKEYNOTE-522周術期TNBCに対するペムプロリズマブの有効性を見たPhase3試験のOS結果がpresidential symposiumで発表されます。Best of ESMOにおきましては、臨床試験の背景を踏まえて、日本での日常診療における試験結果の位置づけと今後の展望について、しっかり議論していきたいと思います。是非とも、世界だけではなく、日本でどうすべきかについて、ご一緒に最新情報を検討する機会にさせていただければと思います！

Best of ESMOに参加してプラクティスチェンジングな発表が社会に与える影響を一緒に味わいましょう！

### 【ご略歴】

2007年4月 がん・感染症センター都立駒込病院 初期研修医及び後期研修医  
2013年4月 国立がん研究センター中央病院 乳腺・腫瘍内科 がん専門修練医  
2015年4月 国立がん研究センター中央病院 乳腺・腫瘍内科 医員  
2017年4月 厚生労働省 保険局医療課 課長補佐（がんセンターより出向）  
2019年4月 国立がん研究センター中央病院 乳腺・腫瘍内科 医員  
2020年7月 国立がん研究センター中央病院 乳腺・腫瘍内科 医長  
2020年11月 国立がん研究センター中央病院 国際開発部門 国際診療室 室長  
2021年4月 国立がん研究センター中央病院 腫瘍内科 医長（診療科名変更）  
2023年10月 国立がん研究センター中央病院 国際先進診療部門 戦略推進室 室長  
現在に至る

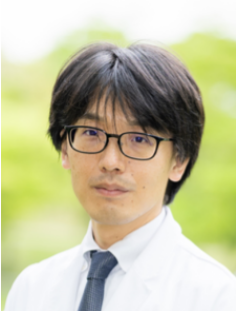
**吉波 哲大 Tetsuhiro Yoshinami**  
大阪大学医学部附属病院 乳腺・内分泌外科／がんゲノム医療センター

### 【視聴者へのメッセージ】

乳癌薬物療法の分野では新薬や新規治療戦略の開発が目まぐるしく、次々に新たなエビデンスが出てきます。新しく出てきたエビデンスは知っておくだけでは十分とは言えません。それらをきちんと読み解き、そこから臨床や研究に役立つエッセンスを抽出して記憶することが大切だと感じております。このような視点に立ち、少しでも皆さまにお役立ていただけるような話をしたいと思っております。よろしくお願ひします。

### 【ご略歴】

2005年3月 大阪大学 医学部卒業  
2005年4月 市立豊中病院 臨床研修医  
2007年4月 市立豊中病院 内科レジデント  
2009年4月 大阪府立成人病センター 臨床腫瘍科 レジデント  
2011年6月 大阪府立成人病センター 臨床腫瘍科 医員  
2014年4月 同 診療主任  
2017年4月 大阪大学大学院医学系研究科 乳腺・内分泌外科学(博士課程) 入学  
2020年9月 大阪大学大学院医学系研究科 乳腺・内分泌外科学(博士課程) 修了  
2020年10月 大阪大学大学院医学系研究科 乳腺・内分泌外科学 医員  
2021年1月 大阪大学大学院医学系研究科 乳腺・内分泌外科学 特任助教  
2021年10月 大阪大学医学部附属病院 がんゲノム医療センター 特任助教  
(兼 大阪大学大学院医学系研究科 乳腺・内分泌外科学)  
現在に至る



# Breast cancer

## ディスカッサント



佐治 重衡 Saji Shigehira  
福島県立医科大学 医学部 腫瘍内科学講座

### 【視聴者へのメッセージ】

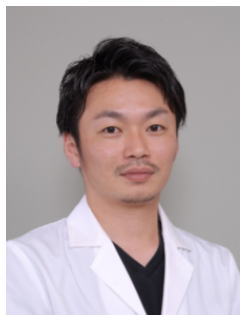
2021年より毎年好評をいただいております。今年で4回目の開催となりました。今回もESMO2024で発表された演題の中から5領域6演題ずつ（計30演題）の解説動画、ならびに各領域のエキスパートによるディスカッション動画を4か月間ご自由にご視聴いただけます。また公開後には視聴いただいた皆様からのご質問を募集し、そのご質問と回答を動画で公開いたします。がん薬物療法専門医資格更新のための単位（10単位）も取得できます！  
今年のESMOでも標準治療を変える注目演題が多数発表されます。  
ぜひ、ご参加をお待ち申し上げます。

### 【ご略歴】

1992年 岐阜大学医学部卒業  
1992年 東京都立駒込病院外科 研修医、外科専門臨床 研修医  
1997年 岐阜大学医学部生化学教室、第2外科教室 博士課程研究員  
1998年 埼玉県立がんセンター研究所 研修生  
1999年 カロリンスカ医科大学（スウェーデン） 博士研究員  
2001年 東京都立駒込病院乳腺外科 医員  
2003年 M.D.アンダーソンがんセンター（アメリカ） 集学的医療研修プログラム  
2004年 東京都立駒込病院乳腺外科・臨床試験科 医長  
2009年 埼玉医科大学国際医療センター腫瘍内科 准教授  
2011年 京都大学大学院標的治療腫瘍学講座 特定准教授  
2014年 福島県立医科大学医学部腫瘍内科学講座 主任教授

# Gastrointestinal cancer 1

## 司会



大場 彬博 Ohba Akihiro  
静岡県立静岡がんセンター 消化器内科

### 【視聴者へのメッセージ】

肝胆膵がんはいずれも予後不良で、他がん種に比べて治療選択肢が少なく、治療開発の成功割合も低いがん種といえます。一方で近年は、ESMOやASCOなどの主要学会でポジティブな結果が報告されることも増えています。肝がんでは複合免疫療法の複数のレジメンが確立してきており、さらに関心は補助療法や局所療法との併用療法に拡大しています。膵がんでは未だ細胞障害性抗がん薬が主体であるものの、最適レジメンの探求や周術期での検討が続いています。本年ESMOでもこれらのテーマについて口演が予定されており、結果の解釈や今後の開発の方向性について検討したいと思います。

### 【ご略歴】

2010年 浜松医科大学医学部卒業  
2010年 秦野赤十字病院 研修医  
2012年 けいゆう病院消化器内科 医員  
2014年 国立がん研究センター中央病院内科 レジデント  
2017年 国立がん研究センター中央病院肝胆膵内科 がん専門修練医  
2019年 国立がん研究センター中央病院肝胆膵内科 医員  
2024年 静岡県立静岡がんセンター消化器内科 医長

## 講師



梅本 久美子 Umemoto Kumiko  
聖マリアンナ医科大学 臨床腫瘍学講座

### 【視聴者へのメッセージ】

肝胆膵癌は未だ予後不良、治療選択肢の少ないがん種として認識されがちですが、肝細胞癌の治療の選択肢の増加、胆道癌に対する免疫チェックポイント阻害薬・標的遺伝子に対する薬剤の承認、膵癌の周術期や進行期の治療開発などがあり、予後は少しずつ期待できるようになってきています。今回のESMOの演題でも重要な演題が多く、各試験の興味深いポイントを踏まえながらご紹介できればと思います。どうぞよろしくお願いたします。

### 【ご略歴】

2009年 大分大学医学部卒業  
2009年 国立国際医療研究センター病院 初期研修医  
2011年 国立国際医療研究センター病院消化器内科 後期研修医  
2014年 国立がん研究センター東病院 肝胆膵内科 正規レジデント  
2015年-2019年 順天堂大学大学院 最先端がん臨床研究コース 博士課程  
2017年 国立がん研究センター東病院 肝胆膵内科 肝胆膵内科 がん専門修練医  
2019年 聖マリアンナ医科大学 臨床腫瘍学講座 助教  
2021年 聖マリアンナ医科大学 臨床腫瘍学講座 講師  
現在に至る



# Gastrointestinal cancer 2

## 司会



**林 義人 Hayashi Yoshito**  
大阪大学大学院 医学系研究科 消化器内科学

### 【視聴者へのメッセージ】

ESMO Congress 2024に採択された非常に多くの消化器領域の演題から注目の6演題をBest of ESMO 2024に選出しました。今年は、消化管と肝胆膵の領域ごとにトップランナーの川上先生と梅本先生よりわかりやすく解説いただきます。なかなか現地参加は難しい方が多いと思いますので、ぜひ多くの方々に最新のESMOのトピックスに関する解説を視聴いただければと存じます。

### 【ご略歴】

2002年 大阪大学医学部医学科卒業  
2002年 大阪大学医学部附属病院 研修医  
2003年 大阪厚生年金病院内科 医員  
2007年 大阪大学医学部附属病院消化器内科 医員  
2012年 大阪大学医学部附属病院卒後教育開発センター 医員  
2012年 大阪大学大学院医学系研究科内科系臨床医学専攻修了  
2014年 大阪大学がんプロフェッショナル養成基盤推進プラン 特任助教  
2015年 大阪大学化学療法部 特任助教  
2016年 大阪大学大学院医学系研究科消化器内科学 助教  
2019年 大阪大学大学院医学系研究科消化器内科学 学内講師  
2022年 大阪大学大学院医学系研究科消化器内科学 講師

## 講師



**川上 尚人 Kawakami Hisato**  
東北大学大学院医学系研究科 臨床腫瘍学分野

### 【視聴者へのメッセージ】

今年のBest of ESMOにご参加いただきありがとうございます。今年の消化管領域に関しては、免疫チェックポイント阻害剤のビッグウェーブが一段落し、例年と比べて大規模な発表は少ない印象を受けました。しかし、臨床的に重要な発表が複数あり、引き続き注目すべき内容が含まれています。会場の雰囲気やエキスパートたちのコンセンサスをできる限りそのままお伝えし、今後の臨床に役立つ情報を提供できればと思います。

### 【ご略歴】

2003年3月 熊本大学医学部医学科卒業  
2004年1月 京都大学医学部附属病院内科 研修医  
2005年5月 大阪赤十字病院内科 研修医  
2006年4月 大阪赤十字病院消化器科 医員  
2006年9月 国立がんセンター中央病院 消化管内科にて研修 (-11月)  
2006年11月 大阪赤十字病院消化器科 医員  
2010年4月 近畿大学大学院医学研究科腫瘍病態制御学入学 (がんプロ大学院生)  
近畿大学医学部内科学腫瘍内科部門 助教  
2013年12月 近畿大学大学院医学研究科腫瘍病態制御学卒業  
2014年7月 Mayo Clinic (Rochester) Gastroenterology Research Unit 留学  
Visiting Scientist (Frank Sinicrope Lab)  
2016年9月 近畿大学医学部内科学腫瘍内科部門 助教  
2017年4月 近畿大学医学部内科学腫瘍内科部門 医学部講師  
2022年4月 近畿大学医学部内科学腫瘍内科部門 講師  
2023年4月 近畿大学医学部内科学腫瘍内科部門 特命准教授  
2024年10月 東北大学大学院医学系研究科 臨床腫瘍学分野 教授  
東北大学病院腫瘍内科 教授

現在に至る

# Lung cancer

## 司会



**大熊 裕介 Okuma Yusuke**  
国立がん研究センター中央病院 呼吸器内科

### 【視聴者へのメッセージ】

今年のESMO Congress 2023の肺がん領域は周術期・集学的治療・進行期を対象に、標的治療や免疫治療といった多岐にわたる分野の重要な発表が多数予定されています。特に周術期や転移性ではEGFR遺伝子変異といった分野が注目トピックとなります。昨年に続き、2名の著明な専門家が選りすぐった重要な演題を選択・解説し、実地診療への影響や今後の研究の方向性についてディスカッションを深めます。今年のESMOにおける肺癌分野における重要演題を、速報性もを持ったテーマとともに議論ができることを楽しみにしています。

### 【ご略歴】

2005年 東海大学医学部卒業  
2005年 東京都立駒込病院 臨床研修医  
2007年 東京都立駒込病院 内科系専門臨床医  
2010年 東京都立駒込病院呼吸器内科 医員  
2018年 東京慈恵会医科大学大学院医学研究科修了  
2019年 国立がん研究センター中央病院呼吸器内科 医員



**鈕持 広知 Kenmotsu Hirotsugu**  
静岡県立静岡がんセンター 呼吸器内科・ゲノム医療推進部

### 【視聴者へのメッセージ】

ESMO2024の注目演題をレビューし、ディスカッションさせていただきます。最新のトピックスをタイムリーに見られる企画ですので、是非積極的な視聴をお願いします。

### 【ご略歴】

1999年4月-2001年3月 横浜市立大学医学部附属病院（研修医）  
2001年4月-2003年3月 藤沢市民病院  
2003年4月-2005年3月 静岡県立総合病院  
2005年4月-2007年3月 神奈川県立循環器呼吸器病センター  
2007年4月-2010年3月 国立がんセンター東病院  
2010年4月-2013年3月 静岡県立静岡がんセンター 呼吸器内科副医長  
2013年4月-2019年 静岡県立静岡がんセンター 呼吸器内科医長  
2018年7月-2024年3月 静岡県立静岡がんセンター呼吸器内科医長 兼 ゲノム医療支援室部長  
2022年6月-現在 横浜市立大学 客員教授  
2024年4月-現在 静岡県立静岡がんセンター呼吸器内科医長 兼 ゲノム医療推進部 部長

# Lung cancer

## 講師



**突田 容子 Tsukita Yoko**  
東北大学病院 呼吸器内科

### 【視聴者へのメッセージ】

肺がん診療は日進月歩であり、周術期、局所進行、免疫療法、分子標的薬、抗体薬物複合体、などなど、多岐にわたりアップデートされています。肺癌診療に大きなやりがいを感じるとともに、最新の知見をキャッチアップしていく難しさも感じます。毎年のESMOでも今後の臨床を変える重要な演題が発表されています。みなさまと今年のESMOのトピックスを共有し、臨床や研究に還元することができればと思います。どうぞよろしくお願いたします。

### 【ご略歴】

2009年3月 山形大学医学部医学科 卒業  
2009年4月 国立病院機構仙台医療センター初期研修医  
2011年4月 国立病院機構仙台医療センター呼吸器内科後期研修医  
2011年10月 東北厚生年金病院 呼吸器内科レジデント  
2012年10月 宮城県立がんセンター 呼吸器内科  
2014年4月 東北大学大学院医学系研究科医科学専攻 博士課程  
2018年4月 東北大学医学系研究科呼吸器内科学分野 医員  
2020年4月 東北大学医学系研究科呼吸器内科学分野 特任助手  
2020年5月 東北大学医学系研究科呼吸器内科学分野 助教  
現在に至る



**土屋 裕子 Tsuchiya Yuko**  
北九州市立医療センター 呼吸器内科

### 【視聴者へのメッセージ】

肺癌診療は、毎年変遷しており、ESMOでも、重要な演題が毎年、発表されています。免疫療法は進行期のみならず、周術期でもトピックスですし、非小細胞肺癌では、ドライバー遺伝子をターゲットとした分子標的薬も新薬の開発が続いています。重要な演題を取り上げながら、肺癌薬物療法のアップデートをしていければと思います。よろしくお願いたします。

### 【ご略歴】

2006年3月 九州大学医学部卒業  
2006年4月-2008年3月 九州厚生年金病院 臨床研修医  
2008年4月-2009年3月 北九州市立医療センター 呼吸器内科  
2009年4月-2010年3月 福岡東医療センター 呼吸器内科  
2010年4月-2011年3月 浜の町病院 呼吸器内科  
2011年4月-2013年3月 がん研有明病院 呼吸器内科  
2013年4月-2017年9月 九州大学医学研究院呼吸器内科学分野（大学院）  
2017年9月-2018年3月 九州大学病院 外来化学療法室  
2018年4月 北九州市立医療センター 呼吸器内科 部長  
現在に至る

# Lung cancer

## ディスカッサント



谷崎 潤子 Tanizaki Junko  
近畿大学 医学部 内科学教室 腫瘍内科部門

【視聴者へのメッセージ】

肺がん診療における最新の試験結果を速報としての結果共有するだけでなく、今回の報告が日常診療にどのように反映されるかについてもディスカッションします。

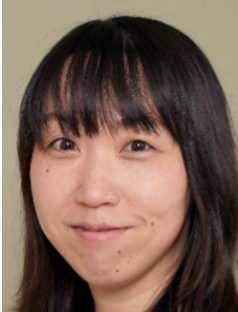
【ご略歴】

2007年3月 近畿大学医学部卒業  
2007年4月-2009年3月 近畿大学医学部附属病院 臨床研修医  
2009年4月-2012年3月 近畿大学大学院医学研究科医学腫瘍生態制御学（早期卒業）  
2009年4月-2012年7月 近畿大学医学部附属病院腫瘍内科 助教  
2012年8月-2015年3月 Dana-Farber Cancer Institute Post-doctoral Fellow  
2015年4月-2018年3月 近畿大学医学部内科学腫瘍内科部門 助教  
2018年4月-2021年3月 市立岸和田市民病院腫瘍内科 医長  
2021年4月 近畿大学医学部内科学腫瘍内科部門 医学部講師  
現在に至る



# Genitourinary cancer

## 司会



前嶋 愛子 Maejima Aiko

国立がん研究センター 中央病院 腫瘍内科／泌尿器・後腹膜腫瘍科

### 【視聴者へのメッセージ】

2023年から2024年にかけて、泌尿器腫瘍ではPractice Changeとなるような報告が相次ぎました。その端緒となったのはESMO2023であり、現地での盛り上がりには目を見張るものがあったと記憶しています。今年もLBAを中心に多くの魅力的な演題が、しかも前立腺癌、尿路上皮癌、腎癌の各分野で発表される見込みです。

Best of ESMO 2024では、北村寛先生、竹村弘司先生に注目演題をご解説いただきます。泌尿器科医かつ腫瘍内科を踏まえた視点から、一方は若手泌尿器腫瘍内科医の視点から、熱いDiscussionをしてくださると思います。

泌尿器腫瘍には、まだまだFrontierが残されています。ぜひBest of ESMOでその奥深さに触れていただき、泌尿器領域と一緒に開拓して新たな地平を目指していきましょう！

### 【ご略歴】

- 2005年3月 東京大学大学院総合文化研究科修士課程修了
- 2009年3月 群馬大学医学部医学科卒業
- 2009年4月 東京大学医学部附属病院 初期研修医
- 2011年4月 国立がん研究センター中央病院 第43期 内科レジデント
- 2014年4月 国立がん研究センター中央病院乳腺・腫瘍内科 第25期がん専門修練医
- 2016年4月 国立がん研究センター中央病院泌尿器・後腹膜腫瘍科 医員
- 2018年3月 東京大学大学院医学系研究科博士課程修了
- 2022年4月 国立がん研究センター中央病院腫瘍内科 医員

## 講師



北村 寛 Kitamura Hiroshi

富山大学 学術研究部医学系 腎泌尿器科学

### 【視聴者へのメッセージ】

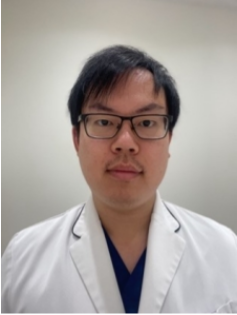
GU領域では、昨年(2023年)のESMOで2つのエポックメイキングなphase 3試験の発表がありました (EV-302, CheckMate 901)。いずれも切除不能/転移性尿路上皮癌に対する一次治療の標準を35年振りに書き換える結果を示し、学会を大いに盛り上げました。このように、ESMOはGU cancersにおいて重要な役割を果たす学会と認識されています。ESMO 2024ではどのような臨床試験結果が発表されるのか？ライブ感を出しつつ、今年のトピックスを紹介致します。

### 【ご略歴】

- 1994年3月 札幌医科大学卒業
- 1998年6月 国立がんセンター中央病院外科系レジデント
- 2001年6月 同泌尿器科チーフレジデント
- 2006年3月 札幌医科大学大学院医学研究科修了
- 2006年4月 Centre d'immunothérapie des cancers, Institut Curie, France
- 2009年9月 札幌医科大学医学部泌尿器科講師
- 2015年11月 富山大学学術研究部医学系 腎泌尿器科学教授
- 現在に至る

# Genitourinary cancer

## 講師



竹村 弘司 Takemura Kohji  
虎の門病院 臨床腫瘍科

### 【視聴者へのメッセージ】

近年、泌尿器腫瘍に対する薬物治療は大きく進歩しています。分子標的薬や免疫チェックポイント阻害剤、抗体薬物複合体（ADC）、ホルモン療法、膀胱内注入療法など、作用機序や投与経路が多岐にわたる様々な治療が開発されています。昨年のESMOでは転移再発尿路上皮がんの一次治療に関する演題が発表され、Practice changerとして大きな話題となりました。ESMO2024でも、腎がん、尿路上皮がん、前立腺がんを中心に、重要な臨床試験の結果が数多く発表される予定です。これらの結果は日常診療をどのように変えるのか、学びを深めながら、皆様と議論できることを楽しみにしています。

### 【ご略歴】

2016年3月 京都大学医学部医学科 卒業  
2016年4月 大阪赤十字病院 卒後臨床研修プログラム  
2018年4月 国家公務員共済組合連合会 虎の門病院 内科レジデント  
2021年4月 国家公務員共済組合連合会 虎の門病院 内科フェロー  
2023年4月 国家公務員共済組合連合会 虎の門病院 臨床腫瘍科 医員  
現在に至る

# Gynecological cancer

## 司会



松本 光史 Matsumoto Koji

兵庫県立がんセンター 腫瘍内科・遺伝診療科・研究部・外来化学療法センター

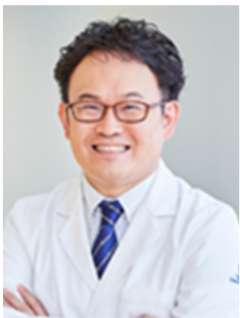
### 【視聴者へのメッセージ】

今回のESMO 乳腺領域では、15題がLBAとして発表されます。KN522のOS結果(Presidential)や、術前のケモフリー、運動などかなりバラエティに富む内容から厳選した6題を選択予定です。婦人科領域では、6題がLBAとして発表されます。今回は昨年と異なりネガティブな結果が多いですが、考えるところの多い試験が含まれています。どちらの領域とも、皆様と情報を共有したうえで議論する機会になれば幸いです。

### 【ご略歴】

1999年 京都府立医科大学医学部医学科卒業  
2001年 国立がんセンター中央病院内科レジデント  
2004年 同病院 乳腺・腫瘍内科チーフレジデント  
2006年 兵庫県立がんセンター腫瘍内科 科長・外来化学療法センター 副センター長  
2024年 腫瘍内科 部長・研究部 部長・遺伝診療科 科長・外来化学療法センター センター長  
現在に至る

## 講師



西川 忠暁 Nishikawa Tadaaki

東京慈恵会医科大学 産婦人科学講座

### 【視聴者へのメッセージ】

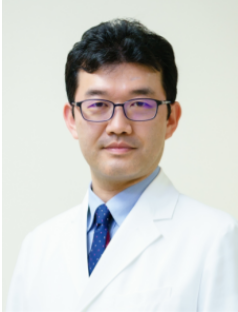
その罹患数、死亡数から、薬剤開発において他のがん腫に比べ、後塵を拝することが多い婦人科がんですが、最近ではPARP阻害薬や抗体薬物複合体等を用いた特徴のある開発が急速に進んでいます。とくに子宮体癌領域では、様々な免疫チェックポイント阻害薬の1st lineにおける実装、分子遺伝学的分類に基づいたprecision medicineの実装などが進みつつあり、その進捗からは目が離せません。

### 【ご略歴】

2006年3月 広島大学医学部医学科 卒業  
2006年4月 広島市立広島市民病院 初期研修医  
2008年4月 広島市立広島市民病院 産婦人科 レジデント  
2010年10月 埼玉医科大学国際医療センター 婦人科腫瘍科 レジデント  
2015年4月 国立がん研究センター中央病院 乳腺・腫瘍内科 がん専門修練医  
2017年4月 埼玉医科大学国際医療センター 婦人科腫瘍科 助教  
2019年4月 国立がん研究センター中央病院 乳腺・腫瘍内科 医員  
2021年4月 国立がん研究センター中央病院 腫瘍内科 医員  
2023年10月 国立がん研究センター中央病院 腫瘍内科 医長  
2024年4月 東京慈恵会医科大学 産婦人科学講座 講師/診療医長  
現在に至る

# Others

## 司会



**野村 基雄 Nomura Motoo**

京都大学大学院医学部研究科 頭頸部腫瘍先進治療学講座,京都大学医学部附属病院 腫瘍内科

### 【視聴者へのメッセージ】

今回のBest of ESMO 2024は、例年の5領域(呼吸器、乳腺、消化器、泌尿器、婦人科)のほかに頭頸部領域と皮膚領域を加え、より幅広い領域で解説いただきます。標準治療を変える臨床試験や、他癌腫と同様に注目されております免疫療法の臨床試験を中心に選出いたしました。注目演題の発表とdiscussionを、頭頸部腫瘍のエキスパートである清田先生よりわかりやすく解説いただきます。また、今年は新たな試みとして、皆様よりいただいたご質問を演者の先生に回答いただくsessionを準備しております。ぜひ多くの先生方にご視聴いただき、ご質問いただければと存じます。

### 【ご略歴】

2005年3月 関西医科大学卒業  
2005年4月 関西医科大学 研修医  
2007年4月 関西医科大学大学院放射線科 (2011年3月まで)  
2009年4月 愛知県がんセンター中央病院放射線治療科 レジデント  
2011年4月 関西医科大学放射線治療科 助教  
2012年4月 済生会野江病院放射線治療科 医員  
2013年4月 愛知県がんセンター中央病院薬物療法部 シニアレジデント  
2015年4月 京都大学医学部附属病院腫瘍内科 医員  
2019年4月 京都大学医学部附属病院腫瘍内科 院内助教  
2020年4月 京都大学医学部附属病院腫瘍内科 特定助教  
2024年2月 京都大学大学院医学部研究科 頭頸部腫瘍先進治療学講座 特定講師

## 講師



**清田 尚臣 Kiyota Naomi**

神戸大学医学部附属病院 腫瘍センター

### 【視聴者へのメッセージ】

近年のオンコロジー領域の進歩の速度は年々加速しており、以前であれば年に1回のASCO annual meetingで十分な情報が得られましたが、現在では1年毎の知識のアップデートでは間に合わなくなっています。そのような中でESMO Congressの果たす役割は非常に大きくなっています。今回、私は頭頸部がんと悪性黒色腫の領域で興味深い演題をピックアップして議論したいと思えます。是非多くの方に視聴頂ければと思います。

### 【ご略歴】

1999年3月 神戸大学医学部医学科卒業  
1999年5月 大阪府済生会中津病院内科系研修医  
2004年6月 大阪府済生会中津病院消化器内科医員  
2005年4月 国立がんセンター東病院消化器内科 がん専門修練医  
2008年4月 神戸大学医学部附属病院 腫瘍内科 特定助教  
2017年4月 神戸大学医学部附属病院腫瘍センター 特命准教授  
2020年7月 同腫瘍センター／腫瘍・血液内科 特命准教授／診療科長補佐  
現在に至る